事前評価書

1 事業名 漁港整備交付金事業	地区名・路線名等 豊浜漁港
2 事業概要 (1) 位置 知多郡南知多町大字豊浜 (2) 規模・内容 胸壁、樋門、護岸の改良・新設 (3) 事業期間 平成 23 年度～32 年度 (4) 事業費 200 百万円	
3 必要性 <p>豊浜漁港内の海岸保全施設は、伊勢湾の災害対策の計画において、利用状況や被災状況を勘案し、計画堤防高 DL+4.60m で整備されている。その際、豊浜漁港中洲地区における本事業箇所は、物揚場として利用されていたため、海岸保全施設は整備されなかった。</p> <p>その後、主な物揚場利用箇所は中洲地区の西側が中心となり、本事業箇所に胸壁の整備が可能となったことから、一連の海岸保全施設を完成させ、浸水被害に対する安全性の確保を図るものとする。</p> <p>また、既設護岸の老朽化により機能低下が見られ、また、越波に対して所定の機能を有していない箇所が見られることから、対策の必要な区間の護岸整備を実施する。</p>	
4 事業効果 (1) 評価期間 : 50 年 (2) 基準年度 : 平成 22 年度 (3) 基準年における総費用 (C) : 193 百万円 (4) 基準年における総便益 (B) : 3,358 百万円 (5) 便益の内訳 : 浸水防護便益 231 百万円/年 (6) 費用対効果 (B/C) : 17.44	

5 事業をめぐる社会情勢の変化

平成 21 年 10 月の台風 18 号において、三谷漁港、形原漁港等、三河湾奥部の漁港において、高潮が海岸保全施設前面の漁港施設用地（堤外地）を越流したが、背後の胸壁で高潮を防護したため、堤内地の浸水被害を免れた。

これらの施設は、昭和 34 年の伊勢湾台風を契機に整備された施設が多いが、漁港利用等の関係から、局所的に胸壁等が整備されていない箇所や高さが不足している箇所がある。また、整備後 50 年近く経過しており、施設の老朽化等による防護機能の低下が課題になっている。

このため、これらの必要性・緊急性の高い箇所の整備が求められている。

6 その他特記事項

特になし